

構想区域	名称	1.今後の方針			2.具体的な計画												②具体的な内容	③年次スケジュール
		①自施設の現状及び課題	②地域において今後担うべき役割	③今後持つべき病床機能	④4機能ごとの病床のあり方について													
					病床数(平成29年度病床機能報告)						2025年度							
高度	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	高度	急性期	回復期	慢性期	合計	介護施設							
三泗	石田胃腸科病院	・外来や急性期病院からの自宅療養困難な患者の入院療養が中心。内視鏡手術後の3～4日の短期入院又は、在宅医や在介からの入院受入もしている。 ・課題は、スムーズに自宅、施設復帰出来るための多職種協働のチーム医療と外部との連携強化。	・在宅医のフォロー(訪問医師や在介等との連携) ・急性期を過ぎてからの社会復帰や施設転院のサポート	・回復期病床	0	0	0	38	0	38	0	0	0	38	38	0		
三泗	主体会病院	・外来からの入院や整形外科手術を担う一般病床(15対1)45床をこれまでは急性期として病床機能報告していたが、平均在院日数が30日を超えており、15対1看護の地域一般入院料の病床であることから、回復期機能で修正報告いたしました。	・地域完結型医療の構成病院として、基幹病院における高度急性期、急性期医療が終了した患者を迅速に受け入れて、急性期後の治療やリハビリテーションを積極的に行い、可能な限り速やかに在宅へ復帰させる。 ・地域のクリニックより、当院で対応可能な症例の紹介患者を積極的に受け入れ、地域医療に貢献する。	・当院は現在、療養病床70床と障害者施設等病床60床の計130床の慢性期病床を持つが、慢性期病床の適正な病床数を再検討して、一部を地域包括ケア病床や回復期リハビリテーション病床などの回復期機能に転換することも検討している。	0	0	98	130	0	228	0	0	98	130	228	0		
三泗	四日市消化器病センター	・2017年に四日市市西部の病院空白区を埋めるという地区計画のもと、菟野町から当地に移転をした。新患の年齢が比較的低く、将来にわたって罹患する疾患が増加するとともに、現状の規模で補えるか心配である。	・専門医の構成が消化器、腎臓に偏っている特性を活かし、消化器疾患や人工透析におけるリーダーシップ的な役割を担い、専門外については、他院との連携にて医療を完結する方針である。	・現在、急性期20床、慢性期20床、計40床であるが、いずれも現在収容に苦労するほどニーズが多く、今後も地域ニーズから考えると急性期・慢性期ともに不足するのではないかと心配である。	0	20	0	20	0	40	0	20	0	20	40	0		
三泗	水沢病院	・当院は、現在、精神科病床196床、内科を中心として扱う療養病床38床を有している。50年以上にわたり三重県のみならず他県からの精神疾患患者や、地域を中心とした身体疾患患者の受入を行ってきたが、開院以来使用してきた外来施設及び精神科閉鎖病棟の老朽化が顕著となり、外来、入院いずれにおいても効率性の低下が問題となっている。さらに古い病棟を敬遠し、受診や入院を躊躇する患者も増加傾向にある。	・地域の高齢化が進んでおり、精神科患者の中でも認知症の割合が増加している。また、身体疾患有病者についても、精神科患者の合併症を含めて増加傾向にある。 ・このような地域のニーズに幅広く対応するため、外来機能の充実化を進め、精神科患者の受入体制を強化するとともに、身体的疾患に対するプライマリーケアについて充実させることが重要である。 ・さらに重症例の受入先として精神科、内科病床の機能性を向上させることも必須である。 ・これらの役割を担うべく現在、外来・検査施設及び精神科閉鎖病棟を含む新病棟の建設と既存の精神科療養病棟改築を予定している。	・家庭や近隣の入所施設から当院に入院依頼がある認知症患者の多くは、暴力や徘徊などのため、当初は精神科閉鎖病棟での対応が必要であり、新病棟が果たす役割は極めて高いと考える。 ・近年、当院では閉鎖病棟へ入院するような重症患者についても、大多数について短期間で退院、もしくは開放病棟(精神科及び内科)へ転棟させているが、身体疾患の合併症を伴うケースが増加しているため、内科病床の充実化を図る。 ・今後さらに地域社会への早期復帰を目指した治療を加速させる。	0	0	0	38	0	38	0	0	0	38	38	0	・届出病床数については、新病棟に移行する際に減床させるが、近代化を図り外来機能・病棟機能を充実化させることで、従来以上に地域に根付いた高度な医療サービスを提供する。 ・さらに既存の開放病棟(精神科及び内科)についても改築し、より利便性を高める。	
三泗	富田浜病院	・四日市北部・川越町・朝日町の地域をカバーする急性期医療体制は、今後必要と考える一方で、地域に不足している、急性期医療を受けた後の回復期機能を充実させる必要がある。	・整形外科疾患への対応を中心とした急性期医療の提供体制を継続する。 ・地域における回復期機能を担う。 ・医療から介護へのシームレスな体制で、地域包括ケアシステムを実践する。	・地域における回復期機能を拡大する。	0	60	85	0	0	145	0	47	98	0	145	0	・地域に不足する回復期機能を提供するため、急性期病床60床→47床とし、回復期リハビリテーション病床を42床→55床へ変更する。	・2018年12月頃工事着工 ・2020年1月頃工事終了 ・2020年2月頃東海北陸厚生局へ届出予定
三泗	みたき総合病院	・(特定病床等)産婦人科病床39床、緩和ケア病床30床 ・医療療養病床44床、回復期リハビリテーション病床44床、一般病床42床(うち地域包括ケア入院医療管理料に係る病床10床) ・ポストアキュート患者の受入の他、サブアキュート患者の受入を行っている。 ・今後は、在宅療養患者の受入実績を伸ばすことが必要と考えている。	・産婦人科病床においては、引き続き地域の中核となる分娩施設としての役割。 ・緩和ケア病床においては、末期がん患者等を支える役割。 ・医療療養病床は、慢性期患者を受け入れる。 ・回復期リハビリテーション病床は、在宅復帰に向けたリハビリを提供。 ・地域包括ケア病床は、病院又は在宅から一時的に入院が必要な患者を受け入れて、在宅復帰及び在宅療養を支援。	・特定病床である産婦人科病床、緩和ケア病床については、引き続き療養環境充実を図る。 ・その他の病床については、地域の医療機関、介護サービス事業所等との連携のもと、引き続き②に記載の役割を果たしていく。	0	86	44	69	0	199	0	36	89	74	199	0	・一般病床においては、急性期又は亜急性期の患者を受け入れていることから、これまでの病床機能報告では、「急性期」病床として報告してきたが、現状における実態、方向性を考慮して、今後急性期病床のうち45床を回復期に機能を変更して計画する。	・平成30年度の病床機能報告から変更する。



構想区域	名称	1.今後の方針			2.具体的な計画											②具体的な内容	③年次スケジュール	
		①自施設の現状及び課題	②地域において今後担うべき役割	③今後持つべき病床機能	①4機能ごとの病床のあり方について						2025年度							
					病床数(平成29年度病床機能報告)						高度	急性期	回復期	慢性期	合計			介護施設
高度	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	高度	急性期	回復期	慢性期	合計	介護施設							
三泗	医療法人徳洲会 四日市徳洲会病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度の病床稼働率は95.5%で、近隣・地域の入院希望も受入をお断りしている状況。</li> <li>院内に増床可能な広さは確保可能であるので、もし、療養病床の増床許可をいただける機会があれば、高齢の夫婦・家族や地域からの要望にも対応していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自宅やサービス付高齢者住宅でも受入が困難で、長期の療養が必要な患者・家族に地域の中で完結できる病院。</li> <li>今後、法改正が進む中、医療療養病床が認められるならば、慢性期の療養病院としての役割を果たしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療的ケアを伴う、認知症や感染症患者に地域で完結できるような個室の整備</li> </ul>	0	0	0	30	0	30	0	0	0	30	30	0	・特になし	
三泗	小山田記念温泉病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>当院の病床機能の現状(平成30年8月1日現在)</li> <li>①地域一般病棟入院基本料3(15:1)、1病棟、58床:回復期機能</li> <li>②地域包括ケア病棟入院料2、1病棟、55床回復期機能</li> <li>③回復期リハビリテーション病棟入院基本料1、1病棟、60床:回復期機能</li> <li>④回復期リハビリテーション病棟入院基本料3、1病棟、35床:回復期機能</li> <li>⑤障害者施設等入院基本料(13:1)、2病棟(53床、56床、計109床)</li> <li>⑥療養病棟入院基本料1、1病棟、60</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三泗区域の医療ニーズを考え、回復期、慢性期の医療を担い、地域包括ケアシステムの構築に貢献して在宅医療と連携する。</li> <li>在宅、施設から当院で受入可能な急性期の患者を受け入れる。</li> <li>急性期病院の後方病院としての役割を果たす。</li> <li>そのため、平成30年7月に地域一般病棟から地域包括ケア病棟に1病棟転換した。</li> <li>地域一般病棟入院基本料1病棟も、病床機能は回復期の役割を果たすものとする。</li> <li>障害施設等入院基本料1の病棟は主に神経難病や肢体不自由者(脳卒中、認知症を除く)の入院治療を行う。</li> <li>療養病棟入院基本料1の病棟では、医療区分2以上の重症患者を中心に受け入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来的にも現状の病床機能の編成が三泗区域のニーズに合っていると考える。</li> </ul>	0	0	208	169	0	377	0	0	208	169	377	0		
三泗	医療法人社団 山中胃腸科病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の病床は、自院に通院する患者の入院や、在宅診療で連携した近隣医療機関のバックベッドとして、また、周辺急性期病院のトランジット病床として機能している。また、市内介護施設の入所者の発熱・脱水等で医療が必要となった時の受入を行っている。</li> <li>職員数により病床が十分に活用できていないため、さらなる職員、特に介護、看護スタッフの確保・充実が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の医療機関・介護施設と急性期病院との中間的立場や橋渡し役としての役割を果たしていくことが必要と考えます。</li> <li>大災害発生時に、軽症患者の治療を行うための人員・設備・資材の確保及び体制を整備し、地域の災害拠点病院の機能を維持・発揮させる補助的働きをする必要があると考えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>末期のがん患者で、自宅の看護・介護ができない方は、緩和ケア病棟に入院して最期を迎えられますが、入院費用が高額となります。医療療養病床に入院しても同じような医療を受けることができ、家族に対する経済的負担も少なくて済みます。現在も少数の方を受け入れていますが、内容を充実させ緩和ケア病棟と遜色のない機能を持たせたいと考えています。</li> </ul>	0	48	0	45	0	93	0	48	0	45	93	0	・現在のところ、機能の変更は考えていませんが、内容については、前述のごとく考えています。	